

柏原市

C S W(コミュニティソーシャルワーカー)

C O W(コミュニティワーカー)

令和2年度

# 活動報告書



社会福祉法人 柏原市社会福祉協議会

# 目次

●はじめに（巻頭言） 「ウィズコロナ社会におけるコミュニティソーシャルワーカー（CSW）&コミュニティワーカー（COW）に求められるもの」	1
●CSW とは	
・CSW の相談件数と活動内容	2
・特集 コロナ禍での取り組み	4
・CSW 事例紹介	8
●COW とは	
・地区福祉委員会とCOWについて	12
●みなさまからのメッセージ	18

## ●はじめに（巻頭言）

「ウィズコロナ社会におけるコミュニティソーシャルワーカー（CSW）&コミュニティワーカー（COW）に求められるもの」

～深刻な地域福祉の現状に、公助・共助・近助・自助が一丸となって立ち向かっていこう！～

大阪教育大学 新崎国広（社会福祉士）

### 1. 地域福祉の現状と課題

従来、日本の公的な福祉サービスは、高齢者・障害者・子どもといった対象別に支援を展開してきました。しかし、少子高齢化の進行に加え、従来の分野別の施策・サービス提供では解決できない、例えば「8050問題」「セルフネグレクト」「貧困の連鎖」「生活困窮世帯の増加」等、従来の申請主義による公的な福祉サービス提供のみでは解決が困難な、複合的かつ深刻な問題が顕在化しています。一方、住民の「福祉に対する無関心化」の問題も非常に大きな地域福祉の課題になっています。令和2年度は、新型コロナウイルスによる肺炎感染拡大の影響が甚大で、学校の一斉休校や、イベントの中止、外出や地域福祉活動の自粛等々、住民同士の繋がりに深刻な影響を与えました。このような状況だからこそ、生きづらさを抱える人々に積極的に寄り添い伴走型支援を行っていく「コミュニティソーシャルワーカー（CSW）」や、共助・近助による支えあいを住民と共に創り出していく「社協地域担当職員（コミュニティワーカー、COW）」の役割は非常に重要です。

### 2. 社会福祉法改正からみえてくるもの

平成28（2016）年9月に「ニッポン一億総活躍プラン」が閣議決定し、全ての人々が地域、暮らし、生きがいを共に創り高め合う地域共生社会を実現するため、支え側と受け手側に分かれるのではなく、あらゆる住民が役割を持ち、支え合いながら、自分らしく活躍できる「地域コミュニティの構築（ケアリング・コミュニティ<sup>※1</sup>）」を目指すことと同時に、今まで行政や社会福祉施設・機関等専門機関が、障害者・高齢者・児童等・公的扶助等の縦割り・対象別で対応してきたものを改め、多職種連携によるワンストップ型・連携強化型サービスへの転換が提言されました。

これに伴い、「地域共生社会実現のための社会福祉法等の一部を改正する法律」が令和3（2021）年4月に施行されます。この改正社会福祉法の第106条の3に、「重層的支援体制整備事業をはじめとする地域の実情に応じて、地域生活課題の解決に資する支援が包括的に提供される体制を整備するよう努めるものとする」と方策が打ち出されました。この重層的支援体制整備事業の3つの柱として①相談支援（本人・世帯の属性に関わらない相談支援）、②参加支援（社会とのつながりを回復する支援）、③地域づくりに向けた支援（地域社会からの孤立を防ぐとともに、地域における多世代の交流や多様な活躍の場を確保する地域づくりに向けた支援）を掲げています。

この三本柱の「断らない相談体制」「参加支援」に関してはCSWが、「地域づくりに向けた支援」に関してはCOWの役割がますます重要になるといえます。

### 3. CSWとCOWの連携協働による地域福祉の推進を目指して

このような背景をもとに、CSW・COWの合同会議を開催し、柏原市の地域福祉の推進に努めてまいりました。今後も、CSWとCOWが多職種連携・地域協働を具現化する地域福祉のコーディネーターとして、「助け上手、助けられ上手」となって、住民や行政、他の専門機関及び社会福祉施設等に信頼される専門職として積極的に活動できるように務めていきたい所存です。地域福祉推進のためには、専門職による支援ネットワークの構築・強化はもちろんですが、行政や市民の皆さまの支援がなければ達成は不可能です。今後、柏原市の地域福祉推進の為に、CSWとCOWへのご支援ご協力をお願いしたいと思います。

1 ケアリング・コミュニティ:福祉サービスを必要とする人を社会的に排除するのではなく、地域社会を構成する一員として包括し地域の中で支え合っていく機能を有しているコミュニティを意味します。

●CSWとは

CSWの相談件数と活動内容 令和2年4月1日～令和2年11月31日

1、相談者別 (重複あり)	の件数	割合 (%)
本人	1,153	86.5%
家族	75	5.6%
民生児童委員・地区福祉委員	24	1.8%
公的機関	25	1.9%
医療機関	3	0.2%
福祉施設・介護保険事業所	10	0.8%
教育機関	21	1.6%
その他	22	1.7%
合計	1,333	100.0%

2、対象者別 (重複あり)	の件数	割合 (%)
高齢者	263	10.8%
(うち) ひとり暮らし	137	5.6%
(うち) 高齢者のみ	126	5.2%
障がい者	143	5.9%
(うち) 身体	12	0.5%
(うち) 知的	9	0.4%
(うち) 精神	122	5.0%
子育て中の親子	55	2.3%
ひとり親家庭の親子	50	2.0%
青少年	2	0.1%
DV被害者	0	0.0%
ホームレス	2	0.1%
外国人(中国帰国者含む)	0	0.0%
ひきこもり	143	5.9%
生活困窮者	1275	52.2%
その他	103	4.2%
合計	2,442	100.0%

※対象者の種別は多岐にわたっており、対象者の枠にとられないCSW活動の結果ではないかと考えています。

3、相談内容別 (重複あり)	の件数	割合 (%)
福祉制度・サービスに関すること	291	17.2%
生活に関する身近なこと	286	16.9%
健康・医療に関すること	158	9.3%
生活費に関すること	261	15.4%
就労に関すること	161	9.5%
財産管理・権利擁護に関すること	23	1.4%
消費者被害に関すること	0	0.0%
多重債務に関すること	1	0.1%
DV・虐待に関すること	20	1.2%
	161	9.5%
住宅に関すること	115	6.8%
子育て・子どもの教育に関すること	38	2.2%
引きこもりに関すること	77	4.6%
近隣トラブルに関すること	53	3.1%
安否確認	37	2.2%
不登校に関すること	7	0.4%
不安解消・介護者レスパイト	1	0.1%
合計	1,690	100.0%

※今年度の傾向として、新型コロナウイルス感染症による生活への不安や困窮、高齢の親からのひきこもり家族の相談が多く寄せられました。CSWだけの対応でなく、多機関と連携しかかわることの大切さ・必要性を、これまで以上に感じました。



CSW（コミュニティソーシャルワーカー）は、地域の皆様からの生活や福祉に関する困りごとをお聞きし、様々な制度や地域での見守り・支援につなぐといった、住民に身近な相談員です。柏原市では、4名のCSWが活動しています。

今年度の大きな特徴として、新型コロナウイルス感染症の影響のため、経済的な困りごとを抱えた方への支援があげられます。相談を通し、貸付やフードバンクなど様々な制度や機関と連携をとり支援を行うとともに、その後の生活状況を聞き取り、必要な方には継続した支援を行っています。

#### 【相談】

オアシスでの常駐相談をはじめ、国分合同会館での定期的な出張相談、地域や学校へのアウトリーチと様々な方法で、既存の福祉サービスでは解決困難な問題や制度の狭間の問題等に対しても、制度の枠に捉われないことなく、相談者に寄り添い、問題解決に向けた支援を行っています。

#### 【さがしてねっと】

「さがしてねっと」は、認知症の高齢者や障害のある方など行方不明者を地域ぐるみで早期発見するためのシステムです。地域の方や施設等と連携し、だれもが安心して過ごせるまちづくりを目指しています。

#### 【不登校児童・生徒の家族交流会】

不登校児童・生徒の家族が、お互いに思いや経験を語り合える交流会を開催しました。家族同士の交流や講師を招いてのミニ講座を通じて、子育てに関する気づきや不安の解消ができる機会となっています。3か月に1回程度で開催する予定でしたが、今年度は新型コロナウイルス感染症の拡大を防止するため、1回の開催となりました。

#### 【住民懇談会】

地域住民と関係機関職員が、ともに地域の課題を考え解決する体制作り・顔の見える関係作りを目的に、それぞれの立場で出来ることを意見交換し、住民参加の地域福祉の推進を図っています。今年度は新型コロナウイルス感染症の拡大を防止するため開催中止となりました。

## 特集 コロナ禍での取り組み

### ☆新型コロナウイルス感染症特例貸付

今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大により、CSW・COWともに、これまでに経験したことのない状況の中での活動となりました。通常の個別支援・地域支援だけでなく、緊急事態宣言や長期にわたる感染拡大により、収入の減少や失業など、生活に困られた方からの相談が数多く寄せられました。このような相談や状況に対し、CSW・COW がどのような支援や取り組みをおこなってきたのかを紹介します。

#### 新型コロナウイルス感染症特例貸付 対応件数(令和2年3月25日～12月31日)

	相談件数	小口資金 申請件数	総合支援資金 申請件数	総合支援資金 延長申請件数	備考
3月	43	3	0	—	令和2年3月25日制度開始
4月	342	100	9	—	
5月	312	126	70	—	
6月	260	79	85	—	
7月	182	53	73	2	延長申請開始
8月	409	47	54	78	
9月	279	41	56	66	
10月	100	33	41	41	
11月	128	18	25	34	
12月	121	16	15	32	
合計	2,176	516	428	253	

新型コロナウイルス感染症特例貸付の開始当初は、外出自粛や時短営業の影響を受けた飲食店経営者や従業員、学校の休校により子どもの養育のため休業せざるを得なくなった子育て世帯からの相談が多く寄せられました。また、年金受給者で年金だけでは生活が苦しいためアルバイト就労をしている高齢者など非常勤雇用の通常時でも収入が低い方からの申請も目立っていました。日を追うごとに、タクシー運転手や製造業者などからの相談が増え、人や物の流れの減少が長期化することでの影響が出始めたことが窺えました。

緊急事態宣言の解除により一旦収入が回復傾向にあった方や預貯金の切り崩しで持ち堪えていた方などが、令和3年になり再度の外出自粛・時短要請の影響のため生活が困窮するようになっており、制度開始当初よりも相談内容も深刻化してきています。

相談や申請でお話しをうかがう中、必要な制度や支援を提案しつなげるだけでなく、苦しい思いを傾聴し寄り添うことで、今後も相談できるような関係作りを心掛けました。

## 対応事例

### ケース1

70代男性。独居。緊急小口資金申請。

「清掃の仕事をしていたが、施設の閉館などで勤務時間が半日になり、生活が苦しい。清掃が終わってからの仕事を探しているが見つからない。」

⇒『らいふあっぷ』（生活困窮者相談支援）につなぎ、就労支援を行い、スーパーの警備員として就労開始。

### ケース2

40代女性 独居。緊急小口資金・総合支援資金・総合支援資金延長申請。

「飲食店で働いていたが閉店し、失業した。新しい仕事が決まり転居したが、体調を崩し入院しており、医療費の支払いに困っている。」

⇒転居先の社会福祉協議会につなぎ、支援開始となる。

### ケース3

50代男性 妻・子2人。緊急小口資金・総合支援資金・総合支援資金延長申請。

「非正規雇用で工場で働いていたが、契約を打ち切られた。正職員の仕事を探しているが見つからず、光熱費の支払いや食料を買うのもしんどくなってきた。」

⇒アルバイトなど当面の生活費を稼ぎながらの就職活動を提案するとともに、光熱費等の支払い猶予制度の案内、フードバンクで食糧支援を行い、らいふあっぷでの就労支援を開始する。

以上のケースのように他機関と連携し、生活再建の可能性ができたケースばかりではなく、年齢的にも新たな就労が難しいなど既存の制度では対応が難しく、困難な状況の中、懸命に生活されている方がほとんどです。対応にあたるCSWのなかでも、「金銭的に困っている方に借金をさせてもいいのか」「つなげる支援がない」などの葛藤を抱えながら対応にあたっているという状態が続いています。

新型コロナウイルス感染症に伴う「外出自粛高齢者・障がい者等見守り支援事業」を活用し、CSW・COWが連携し、次の事業に取り組みました。

### ☆ 外出自粛下での生活状況アンケート及び啓発活動

高齢者や障がい者・子育て中の親子に対して、外出自粛中の困りごとや緊急事態宣言解除後の生活状態を、また、民生児童委員・福祉委員には見守り活動時の困りごとや活動への思いのアンケートをとりました。

アンケートに寄せられたご意見等は、第4次地域福祉活動計画に反映させるとともに、第2波・第3波到来時の活動への参考としました。

また、アンケートとともに、感染予防への啓発として、消毒用アルコールジェル・感染予防対策チラシを無料配布しました。

### ☆ 地域応援団プロジェクト

特例貸付の相談は、令和2年12月末時点で2,000件を超えました。相談内容から飲食店関係者の応援だけでなく、アルバイトができず収入が減少した大学生の経済的負担を減らしたいと職員で話し合い、「地域応援団プロジェクト」を令和2年11月に立ち上げました。柏原市産業振興課・大阪教育大学・関西福祉科学大学の協力により、柏原市社協公式LINEに登録した大学生170名にプロジェクト賛同店で利用できる割引クーポン券を配布しました。費用は大阪府独自の「外出自粛高齢者・障がい者等見守り支援事業交付金」から助成しました。

#### 【生活支援】

飲食店関係者からは「コロナ禍でお店の売上げが減って、経営が厳しい状況でした。そんな中、地域応援団プロジェクトのおかげで若い学生のお客さんが来てくれて本当に勇気づけられました!」、大学生からは「一人暮らしで親からの仕送りやアルバイトが減ったのでとても助かりました!本当に嬉しいです。ありがとうございます」という感謝の声をいただきました。



## 【地域活性】

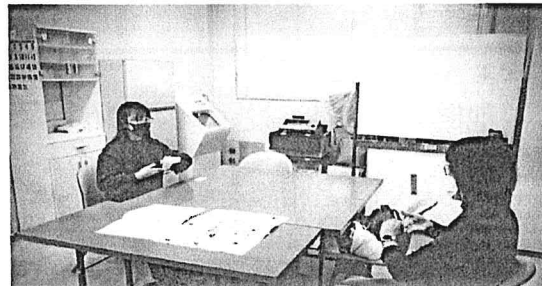
このプロジェクトがきっかけで柏原市社協公式 LINE に登録した大学生に柏原市内のボランティア活動を紹介しています。興味のある大学生が実際にボランティア活動に参加するなど、新たな地域活動の担い手づくりにもつながっています。

★実際の活動と声を紹介します。



### 3名の学生が地域の百歳体操にチャレンジ!

「体操やたくさんお話が出来てとても楽しかったので、ぜひまた参加させていただきたいと思いました」



### 初めて手話にチャレンジ!

「ボランティアの方と実際に話をして、手話の楽しさや奥深さを肌で感じることができました。興味本位だったことがやりたいことになりました!」



### リモートでボランティア紹介にチャレンジ!

「リモートでたくさんのボランティアの方々の活動を紹介してもらい、とても楽しむことができました。現在、活動が制限されている中、学生の自分には何ができるのかを考えながら活動に参加していきたいと思います」



### 子育てサロンにチャレンジ!

「ボランティア経験や子どもたちとの接し方はまだまだですので様々なボランティアに参加する中で徐々に上手になりたいと思います」

このプロジェクトがきっかけで、登録した大学生には柏原市内のボランティア活動を紹介するなど、新たな地域活動の担い手づくりにもつながっています。

大学生が地域の介護予防や子育てサロン、子どもの学習支援事業、初めての手話にチャレンジすることで、参加者はもちろん、ボランティアの笑顔にも結びついています。

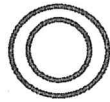
# CSW事例紹介

## 地域住民への伴走型支援

### 相談概要

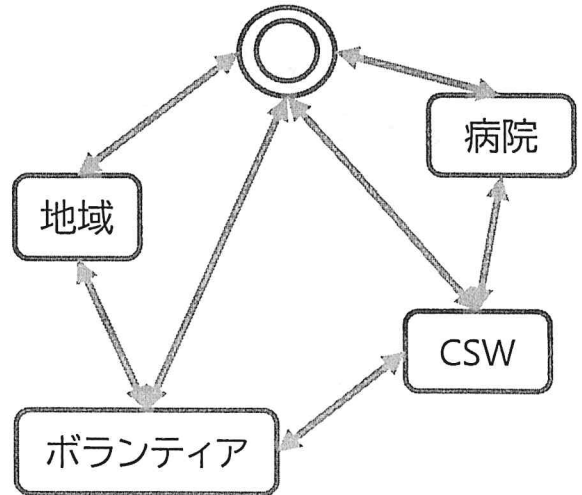
他機関より、地域との繋がりがなく頼れる場所がなくて困っているZさんがいると相談を受ける。CSWがZさんにお会いすると「近所トラブルに巻き込まれている。周りに知り合いがいなくてとても不安。漠然とした不安がストレスである。」と話され、助けを求められました。

### 支援前のエコマップ



地域との繋がりがない

### 支援後のエコマップ



### 支援のフローチャート

#### 〈初回面接〉

Zさんの同意を受け、ご自宅へ訪問する。会話を重ねるうちにZさんから「病院に行きたいが電話が出来ない。」  
 「近所から嫌がらせを受けていてストレスが溜まる。」  
 「柏原市の地域について分からない。」など思いを話して下さる。

#### 〈Zさんの要望〉

「病院に行きたいが電話が出来ない。」

#### 〈公的支援のプロセス〉

受診の予約を行い、通院に同行した。

#### 〈結果〉

病院を受診。

#### 〈Zさんの要望〉

「柏原市の地域について分からないので教えて欲しい。」

#### 〈インフォーマル支援のプロセス〉

Zさんが興味のあるボランティア活動や地域の活動の場の情報収集を行う。

#### 〈結果〉

情報提供を行い、Zさんから活動の場に参加される。



## 地域住民への伴走型支援

### CSWの対応

○月×日 他機関より地域との繋がりがなく、頼れる場所がなくて困っているZさんがいると相談を受ける。その後、他機関からZさんへCSWの存在を説明すると「会いたい」と希望があったため訪問へ行きました。訪問の際にZさんとお話していくうちに、Zさんより、「病院に行きたいが電話が出来ない。通院が滞っている。」

「近所から嫌がらせを受けていてストレスが溜まる。」

「地域に引っ越してきたばかりのため、地域について分からない。」

「運動したいけれど活動場所が分からない。」など

現在の不安な気持ちを話してくれました。

- +4日 Zさんと今後の優先したいことを話し合いました。優先項目として、「病院へ受診すること。」が最優先となったため、Zさんが不安に思っていた病院への受診調整をCSWが行いました。
- +5日 受診にCSWも同行し、今後の通院が継続となりました。
- +6日～170日 数週間に1度くらいで定期的に話し合いの場、相談の機会を設けました。
- +173日 Zさんより「就労したいが、体調が万全でないので何かボランティア活動か地域の活動に参加して体を動かしたい。」と希望がありました。そのため、CSWがボランティア活動の情報を収集し紹介しました。
- +190日 Zさんは数種類の中から気になるボランティア活動を選ばれ、活動先に連絡を入れ、ボランティア活動に参加されました。
- +203日 また後日、Zさんから「このボランティア団体について情報があれば教えて欲しい。」と前回と違う団体の情報を教えて欲しいと希望があったため、ボランティア活動の情報収集を行い情報提供を行いました。

### 考察

Zさんは当初、家族・知り合いとも疎遠の状態であった上に柏原市内の地域との繋がりがなく、頼れる場所や相談場所が分からないため不安な気持ちが大きくなっていました。今回、CSWが関わることにより病院の通院継続、相談場所が出来たこと、ボランティア活動を通して地域住民との交流する機会が作れたことで、地域との繋がりが構築され、本人様の安心に繋がったと考えます。

### スーパーバイザーからのコメント

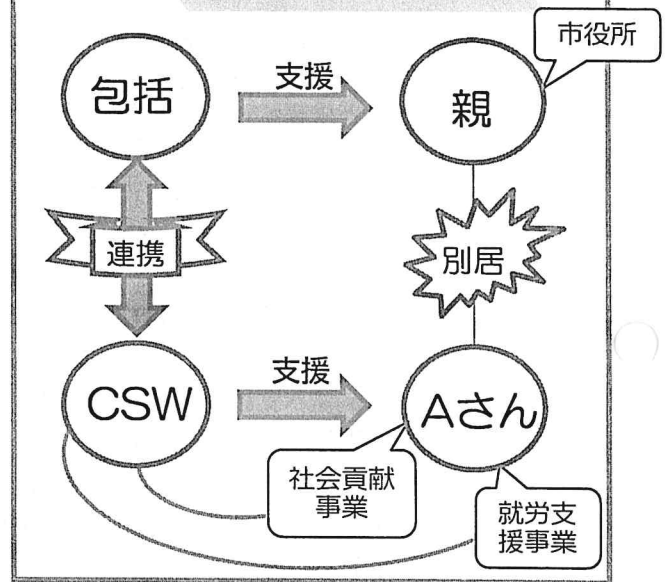
本事例の主な特徴は、次の3点です。①他機関からの相談に対して、問題が深刻化しないうちに、迅速に対応している点、②CSWが、Zさん自身の不安やしんどさに寄り添い十分に傾聴・受容しながら伴走型支援を行うことで、Aさんのエンパワーメントを行っている点。③病院受診等、公的サービスにつなぐだけでなく、Zさんにあったボランティア活動を紹介し、再度、社会的孤立の状態にならないようなインフォーマな居場所づくりを提案している点、まさに、予防的支援と伴走型支援としてのCSW実践の好例です。

# 8050問題に対する 多職種連携

## 相談概要

『青年時代の経験から20年以上ずっと家に閉じこもっている子ども（以降Aさん）がいる。小さいころから厳しく育てすぎたせいもあり、私たちに対して反発するようになった。若い時は対処できていたが、自身も高齢になりいよいよ対処が難しくなってきた。今は、距離を置くために知り合いの家へ引っ越している。残った子どもが気になるので、今後の生活の相談に乗ってもらい、可能であれば社会復帰させてほしい。』と、Aさんの両親から相談が入る。  
現在Aさんは家に一人でのこと、CSWはAさんに、包括支援センターが両親への窓口となり対応を開始する。

## 支援のエコマップ



## 支援のフローチャート

### 「インテーク」初回面接

最初は会うことを拒否されている様子。名刺に書置きを残して訪問を繰り返し、Aさんとの接触を試みる。数日後、本人よりCSWに電話があり相談を開始する。

### 「アセスメント」情報収集

信頼関係が出来るまでは、Aさんのことばに耳を傾けることに徹する。徐々に今の気持ちと将来どうなりたいのかを話してくれるようになり、共感してほしいことと解決すべき課題がみえてきた。

### 「プロセス」支援経過

Aさんを支援するチームと、両親を支援するチームに分かれ、課題別に役割分担をはかった。CSWと包括支援センターは、密に連携して情報共有を行った。

### 「評価とフィードバック」

進捗状況について、チームの評価と課題の見直しを図った。CSWと包括はその都度Aさんと両親に支援方針について話し合った内容を伝え、本人達の気持ちを確認しながら支援をすすめた。

### 「地域へもどる」

Aさんの社会復帰がみえた段階で終結についてAさんを交えてCSW・包括と話し合う。今後、支援が終わっても5年、10年と地域で安心して暮らしていける体制が図れているか一緒に考え、また、困った時にいつでも相談出来ることをAさんに伝える。



## 8050問題に対する 多職種連携

### CSWの対応

- 月×日 Aさんへ電話するがつながらず。様子を伺うため、CSWと包括支援センターで自宅へ訪問するが、お会いできず。玄関も閉まっていたため、名刺に書置きを残し、その後も訪問を繰り返す。
- +7日 本人さんと接触することができ、CSW・包括の紹介をする。  
親から話は聞いていたとのこと、Aさんは自分の挫折を中心に話さ出される。  
CSWと包括支援センターはAさんの話に傾聴に努める。
- +21日 何度目かの訪問で、Aさんから「本当なら今頃、働いて結婚もして、子供もできて、もっと立派な大人になっていたと思う。」「できるなら、今からでもそうなりたい。」と現在の気持ちを伝えられる。Aさんと支援についての合意を確認し就労支援を開始する。
- +31日 社会から離れた時間があまりにも長く、社会経験もほとんど無かったため、就労支援事業やハローワークと連携し、コミュニケーションの練習をする。飲み込みはとても早い印象。  
包括支援センターを通じて両親へAさんの進捗状況を伝えてもらい、情報共有を行う。
- +65日 社会貢献事業を活用し、リクルートスーツや仕事用の靴や道具を調達。  
面接のたびに、希望の職種や就労訓練を含めたステップアップについて検討を重ねる。
- +93日 包括と情報共有を密に行い、Aさんと両親の支援について役割分担を行う。  
Aさんの社会参加を親に伝えてもらうことで、関係性も少しずつ改善が見える。
- +127日 「就職が決まりました。」とAさんより連絡がある。就労後も定期的に連絡ができるようAさんと今後の支援体制について確認をする。

### 考察

Aさんは両親に対して、自分を理解して欲しいという強い気持ちから、両親に何度も話の場を持ちかけていましたが、両親はAさんに対して、話し合いを強要されたり、感情的に当たられていると感じており、両者の間に認識のズレがあったように感じられます。認識のズレが改善されない内は支援につながりにくいと感じたため、最初の頃はAさんの訴えに耳を傾けることに徹し、両親以外にもAさんのことを理解しようとする人間がいることを伝えました。同時に、包括支援センターへAさんのコミュニケーションの取り方や性格・趣味の話など些細なことも含めた情報交換を密に行い、両親へAさんの進捗状況を報告してもらう役割を持ってもらいました。初期段階から包括支援センターと連携し、役割分担についてきっちり話が出来ていたこと、CSWとAさんの間に信頼関係を構築できたことが支援へつながる「きっかけ」になったと考えます。今後、Aさんが地域で役割を持って活動していくため、地域とどのよう関わり次のステップアップへ結びつけるかが、CSWとしての課題と感じています。

### スーパーバイザーからのコメント

本事例は、20年以上ひきこもり状態が続き、セルフネグレクト(自暴自棄)の状態にあったAさんに対して、CSWがAさんの気持ちを尊重し、傾聴と受容を重ねて信頼関係を構築する過程の中で、Aさんの本当の想いを発見し承認することで、少しずつAさん自身の自己有効感を高めていき、地域との社会関係を構築していったエンパワーメントアプローチの好例です。Aさんの今後について、関係機関による支援会議にAさん自身が参画できたことは、Aさんの自立支援にとって極めて有効であったと思います。また、今回のケースに限らず本人が支援会議に参加できる関係づくりや対応がとても重要です。

## ●COWとは

### COWと地区福祉委員について

COWは、コロナ禍で感染対策を徹底しながら「今、地域で出来ること」は何かを地区福祉委員(以下、福祉委員)と一緒にアイデアを出しながら活動を進めてきました。まずは、COWと福祉委員について知ってもらえればと思います。

#### COWとは？

地域の方々が自分たちの地区をより良くしていくお手伝いをしています。また、地域のSOSを聞いた場合には、早期に発見してCSWなどに相談を繋いでいきます。

#### 福祉委員とは？

町会単位で地域の見守り訪問活動(個別援助活動)や居場所づくり(グループ援助活動)を実施しています。

#### 福祉委員の任期と委嘱は？

町会単位で任期は2年。柏原市社会福祉協議会が各小学校区ごとに委員長を委嘱し、委員長が各町会の区長の協力により福祉委員を委嘱します。

#### 民生・児童委員(以下、民生委員)との関係は？

福祉委員と民生委員は、協力関係です。どちらも地域の強い味方で福祉委員は見守りの役割が大きいです。一方、民生委員は地域の困っている方の相談に乗っていく役割が大きいです。

小学校区域ごとに市内には9つの地区福祉委員会があります。この後の9つの地区福祉委員会の活動事例を通して、COWの働きや今後の活動の参考にしていただければと思います。

## 事例のタイトル

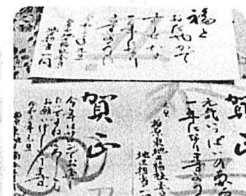
## 地区名 ○○○地区福祉委員会

## ①福祉委員の思い・課題



## ②COW働きかけ

## ③成果



## ④スーパーバイザーのコメント



## 感染防止しながら安否確認の継続！

## 地区名 柏原西地区福祉委員会

①福祉委員がお一人暮らし高齢者の安否確認(友愛訪問)を対面で実施することに不安があると相談がありました。

②感染防止しながら安否確認できる方法を福祉委員と一緒に考えました。



③友愛訪問の粗品を郵便受けに投函や玄関先に置き、インターホンを押して対象者の方への安否確認が継続されています。

④実際に対面できない状況のなかで、熱心に訪問活動を継続されておられまさに「地域の福祉力」の強さが推察されます。



# マスク作りで子どもたちとつながる！

## 地区名 柏原東地区福祉委員会

①マスク作りに取り組み、友愛訪問のときに配布して喜ばれたので、もっと地域の役に立ちたいと相談がありました。



②市内の児童養護施設で子ども用のマスクが不足して、困っている声があることを伝えました。



③裁縫、アイロンかけ、生地を寄付してくれる人など多くの協力があり、子ども用のマスクを1週間後には200枚作成されました。その後、施設へ寄付し、子どもたちからたくさんのお礼状が届きました。

④サロン等が中止になるなか「マスクづくり」という自宅にいてもできる活動を通して、子どもたちも地域の方々も双方がつながりを実感できるwin-winの地域福祉実践ですね。



# イベント中止の対応から親子の見守り！

## 地区名 堅下北地区福祉委員会

①コロナ禍で会館が休館、子育てサロンのクリスマス会のイベントが中止になりました。



②当日、イベントの中止を知らずに来た親子の対応について福祉委員と話し合いました。



③福祉委員から参加者へ次回のイベントを案内していきました。また、後日に福祉委員から参加者へお手紙を送られました。

④実際に対面できない状況のなかで、今できることを最大限に活かした活動を継続され「地域の福祉力」の強さが推察されます。



# スマートフォンでつながり続ける！

## 地区名 堅下中地区福祉委員会

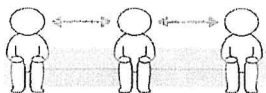
- ①スマートフォンを使って、家から出なくてもつながりたいが、使い方を  
知る機会がないと相談がありました。
- ②スマートフォンが得意な地域の方をゲストにスマートフォンの使い  
方を少人数で知ってもらえる企画について話し合っていました。
- ③当日、参加者からは「遠く離れた家族に覚えたことを送りたい！」、  
福祉委員からは「私も知らないことをたくさん知れた。参加者の  
知ったときの笑顔がうれしい」と感想をいただきました。
- ④実際に対面が制限される状況のなかで、スマートフォンによるオン  
ライン機器を活用し、今までに大切にしてきた「人と人とのつなが  
り」を後退させないアイデアと努力が素敵ですね。



# 活動再開ガイドラインで会議の継続！

## 地区名 堅下南地区福祉委員会

- ①福祉委員会活動の継続のために福祉委員の会議をどのようなこと  
に気を付けて実施したらいいかと相談がありました。
- ②独自で作成した地域福祉活動再開ガイドラインを情報提供してい  
きました。
- ③入口で消毒、間隔を空けて座り、会議中は室内換気、参加人数は  
最小限、体調が優れない場合は会議の不参加を徹底して会議を継  
続することができました。
- ④実際に対面できない状況のなかで、熱心に福祉員会活動を継続  
されておられまさに「地域の福祉力」の強さが推察されます。





# 防災の研修会から防災散歩へ！



## 地区名 国分東地区福祉委員会

①管外研修へ行くことは断念されましたが、福祉委員向けの研修会を開催したいと相談がありました。



②コロナ禍だからこそ、福祉委員で取り組めることは何か会議の場で様々な意見を出してもらい、集約をしていきました。

ハザードマップ



③「防災の研修会」を開催されました。当日は密を避けるために町会ごとに定員を設けて、参加できなかった方にも伝達をしてもらいました。また、ハザードマップを持って数名が防災散歩もされました。

④防災は、コロナ禍のなかでも必要不可欠な取り組みです。今できることを工夫されて活動を後退させない努力が素敵です。



# 参加者の声から生まれた活動！

## 地区名 国分中地区福祉委員会

①ふれあいサロン参加者から近くに散歩へ出ることが減って、筋力が落ちていると相談がありました。



②他の参加者にも話を聞いたところ、近くに散歩へ出ることが同じように不安になっておられる参加者が多くいることが分かりました。

③福祉委員と話し合い、地域の医師にふれあいサロンへ出前講座で来てもらえるよう、調整していきました。後日、笑顔で友だち同士で散歩を楽しんでいる参加者を見ることができました。



④実際に外出が制限され心が塞ぎがちになる状況のなかで、諦めないで工夫され、今できることに取り組んでおられることが素敵です。



## 学生と地域の異世代交流！



### 地区名 国分西地区福祉委員会

①自主的に介護予防に取り組んでいる活動(百歳体操)があり、学生に活動を知ってほしいと相談がありました。



②地域応援団プロジェクトで介護予防に興味のある学生へ活動の紹介と参加の呼びかけをしていきました。



③当日には3名の学生がボランティアで参加してくれました。福祉委員、参加者、学生が和気あいあいと介護予防や楽しいお話に花を咲かせることができました。

④まさに、地域からの相談に迅速に対応し、ボランティアの学生と地域の高齢者の異世代交流を実現、学生にとっても地域の高齢者にとっても、健康づくり、生きがいづくりにつながる素敵な実践です。



## サロンの代わりに自宅で介護予防！

### 地区名 堅上 地区福祉委員会



①密になるため、年1回の約100名が集まるふれあいサロンの実施を断念したいと相談がありました。

②ふれあいサロン中止の代わりに対象者の自宅への訪問活動ができないか話し合ってもらいました。

③対象者に福祉委員で椅子に座ってできる体操のチラシを配布されました。対象者から「自宅でいつでも気軽に介護予防に取り組むことができる」と好評でした。



④実際に対面できない状況のなかで、活動のアイデアを出し合い、体操のチラシを配布するなど、今できることを最大限に活かした活動を継続され、「地域の福祉力」の強さが推察されます。



## ●みなさまからのメッセージ

### 地域の方より

COWさんには、いつも親身に寄り添って相談に乗ってもらっているので心強いです。今年度は、コロナ禍で何をやっていいかわからず不安になることも多かったです。しかし、そのような中でもCOWさんやみんなで話し合いながら、従来から大切にしている見守り訪問活動を継続できたことは自信にもなりました。訪問先の方が笑顔でお話をしてくださる姿に私たちの方が笑顔になり、元気をもらえることも多かったです。

福祉委員さん

### 地域の方より

COWさんが架け橋になって、地域応援団プロジェクトの学生さんとリモートでつながることができました。今年度は、コロナ禍で活動を見てもらう機会が減っていました。学生さんに活動をリモートで見てもらうことができるとてもうれしかったです。やっぱり活動を見てもらうとやりがいも増すように感じました。今後も、リモートで離れていても心はひとつにつながっていきたいと思います。

ボランティアさん

### 専門機関より

こころの病を抱える方への支援には、個別支援だけでは対応できないことも多く、様々な機関との連携・協力が不可欠です。

特にCSWさんは子どもから高齢者まで年齢に垣根なく、また制度のはざまに困っている方の対応をしていただける心強い存在です。今後ともよろしくお願いします。

大阪府藤井寺保健所 地域保健課 精神保健福祉チーム

### 専門機関より

コロナ禍の影響で失業、生活環境が悪くなる方が多い中、当サポステでは早期就職に向けた支援の幅を広げ、様々な就職困難な方のニーズに応えられるような仕組みの構築や支援をしていきたいと考えています。各種関係機関との連携強化を図り、チームとして職業的・社会的自立をサポートしていきます。

南河内地域若者サポートステーション